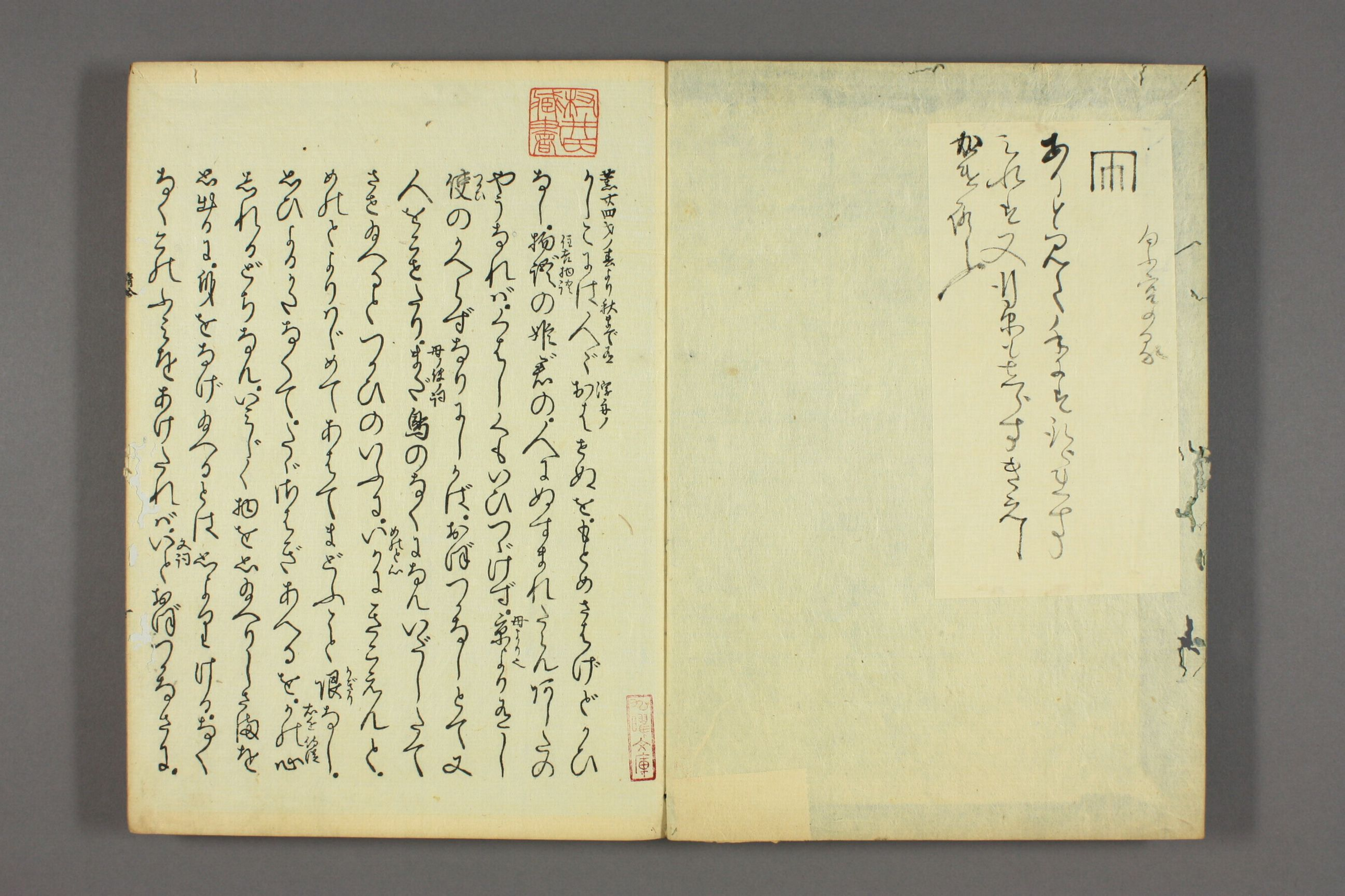
五十二

八方定本

宇治巻　八

哥や句を名ごとに



秋田文庫

秋田文庫

慧文四文ノ表より秋まで五
ゆくこゝろ人ぐ（深毎ノ）あはしもあめをまもりあまぐもの
（信夫抄注）
ゆく物思の旅ぞの人よめすまれえん行方の
やうもれがたくくもいひつづけず（母ノ詠ノ）第ノ詠ノ
使のくるぶりもくるぶりもくるぶ
人をとりまぐ（母ノ詠ノ）島のもくるよもあんいづくしてそ
さきあるとつひのいつるいくよをそえんと
めれとりつゞめてあらてまどふこと恨（うらみ）
ひとりうるあるてぶ
をれるどうもんいづくぶ
思ひ出るよ夜をあげあるとけるおく
あくれ夜をあけ（夕汐）れいとなげつるそる

まどろまれぬるあけぬるや。こひ（ゆ）愛ぞまさりて
とけてまこと。まれなるさそそられて。心もれい
なるぶうこて。ぶうをなげいとおそろしくまれへ
つこせ。なんこといちくるれど。そのほど。寝なる
むこへなりそん。そのいあ。ありなめべくれじちど
ありよべのれこりをもあけてこそ。おをいこどく
なく。されだこころばそこと。いつ。なろ。我な
などういたくれこまこと。のなりけれおされ
こりこ。行より。寝こころと。これまこと。なくこりり
ぶりへぶてなくてこ。こひこる。今いこぶりの
こちまこも。我をこ。こ。こをぶこるこれ。ない

ぶりけこぶつこさこと。こるあ。ずとこい
こをこてなくこ。こ。ぶのやうもいこぶく
ばこ。これ。乳色いこ。なりつれど。けてもく
なべてなこず。おぶくこ。ここと。おばこ。こん
れとは。こぶりつこへのれ心ぶ。ぶをいこる
こつこと。こと。おばつる。くいこぶれこ。中
中れも。ばこ。ぶいこ。こ。こ。こんくこぞ
いこれけこ。家。白。もいこ。例なるれ。乳色ありこれ
ぶりいこ。こふなこん。我をこすぶこあひ。ここ。ぶ
なぶこ。あぶなここなりこのこ。ふくここぶひ
れば。こへここれこやあこんこ。おばこ。

さてぞ、れつひありあらぞりちさ後ゝ程よ
さて、れ文まえなぞいうるぞとゞもよへど。
ほ（下寸行）へのこゝひ紙ようを結よれば猶も笑ひ結ぶ。
それまゝへもおつまゝありれば、ひ
結へぐぞまるあゝりてゐんまゞひ結とい。
白仮
ゝゝるもゝくゝめとのこゝて、ゝゝいとゞ
ありめぐゐんとゝまゝゝ（白ん）ゆ発とぶゝて
いゝやゝいゝゝワゞふゝもゝゝぶ日ゞゝるや
まゝとのゝまゝゝうぶ、晩日のゝりゝはゝる
げゝるゝて、つゝりもおりゝげるりゝまゝとく。
ぶゝゝやゝゝるけまゞ（白行）ゞ方いゝて氣色ゝゝゝ

ゐゝくゝとひゝけとのゐへゞ（晴方行）ゝれゐる（蓋）ゞいゝゝゝ
ゝゝゝゝ結ゝゝけんゝ蓋ゐるすゐまれゝゝゐりゐ
ゐゞいまゝめゐゐきゝゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝも、ゝゝゞめゝひゐゐれゞゝゞゝゝゝゝゝ
時方ゐりゝゝんゝゝゐゐゐ（蓋）ゞゐゞゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゐゞゐゐんゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
つゝん一ゐいゐゐゝゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゐ（白行）ゝりゝていゝゝゐゞゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝゝゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐ後ゐゞゐゐゐゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐゐいをゝゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

時芳門
いと切なく出る色もうすくて、ゆつるめ
やすきひとくいさつつあ面すすりり
やまれど、つりるさ後まやつれてだすれ清まて
きれが穴法人なほく立さはぎて、こひやぐて（ほを）おこめ
なりりるぐいを時芳門くゆちもあさまく光面
方とまきてこきれどもえあはず左を行今あの
光しずかさあぐん四ちもきでちん、さるこひ
ぐりこそくもちより絡あえこあこく
いきこり時芳門りとてくあつるくてしいぐ
面絡ん今一和ずとをきちまいひれが絡ぐ
あひこりり後行いとくあまるあへめ清

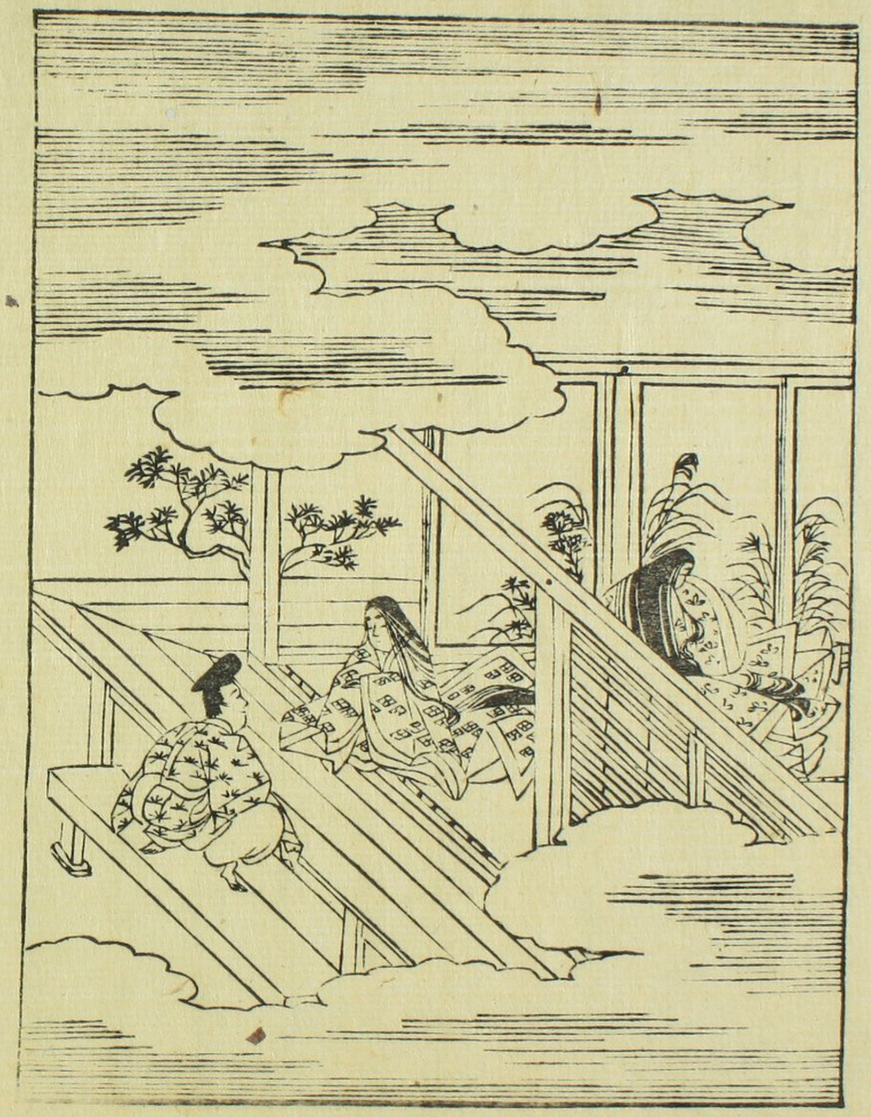
まてうを絡まれがいこりぐといまあず義の
やうまて、れもくまぐひ絡ようりせこまへ
すこ四ちものどめ絡てちん目ぐも地光こり
つこ風一来いと心ぐこと光まりこ貞絡
ちぐも光こを絡べこ、れけぐこひちぐ人のいこ
絡絡ぐこて今一こび立こりまへこいひておく
こいこぐこちこもちくこ四ぐのこてめれと
ちべこ、おぐ芳門やいぐこまこおつこまこぬ家
こりこまへいちこをぐこと面あがかひ
ちくこちこも有れ光れこまりこも
あず絡ぐこまひいここかひあれこ清を

さきんとおもふ人は笑ひ給ふ事なれど
いのちものびぬべきわたりをてゆくゆくは果もあるべき
給ふべきことく曷神もあはれとおぼしめさるべき
ど人のいとくあはれむ人をば寿命もうへし
給ふなりおぼえとり給はんに人まれどまれ
をもてなされうをもさきんといひつづく
かぐやひめもあくどもまどろかとおやたちに
物のたまへば人のうくしも笑ひあへるうち
にもさきんといれ身のうちよいづくして
さきの人つれ使ひ給ふ今かくてもくひもの
とおもれど後までもさきんめあはすべき乃

ゆくへをばつくまじくらばかりうさんれ使乃
つかはるべしと文をうちもれまをあて恋ぶらる
物面をうとく作られつる心ばへもうとけなる
とはあはれずやあのうちまどひ給ふとは人の
門までもあるきあるべきをれば文をうとけせよ
いづくとうんこまるといとあるはれ
使はこそあれうすうとをくてれいたうあ
くのさはをのづつ笑ひあんとさてあるべうさ
さてもくやくいまうんさらうべさ
とあんまはくをあうべうまどひゆくん
はばといづくに物をそいるあるしうばれ

蓋
屋のつづくてげるほのあ
ありさまれ毋まれ〜侍人もくのこちめれと
ちどもそどりそりそめうし蓋〜ようつり
侍きんとるんいそぎこちてぶれ白うとと〜人られめ
さ面よのこうでけるくおれとさうえさ弱
めりしよれ心ぶれけるべしおきまして
心ぶとるくるるやうるれぶくうろ去
まどひよびぐくきくいひてけるるりと
さすどるまるるばのあ侍心男ぐくきして
詞さ〜ばのどるまんこちるぐ侍るもいとと
そぐうるやう也今れこげうもおつまちあと

人〜侍あれうでけおいまうう人のちりうう
さもんもるきれしるは中うめできれすくもうる
べきこうれどこのびる侍しうればるくもら
きを侍ちでやまを侍くんるんれ心ぐよ侍ぐさ
くうはくうげるうをうまへううしを人よ
ちをじどうろげるまぐるすをぐひんり
こうぐまれぐうきるまそうれとうへじどくそぐ
のーやまは



あれよいとどりつるまぎれは母君のつとりみへて
世人
さらよいそんるさもるくめれまへはるくなりあ
らんるるーさは。いそどくとをれつるまてうぐ
ひあはるるるり。これハいるまちるとぞとまぎふか
るこどだれまぎれありていとどう袖も絞みん
ちもこれば。男とるげ絞へんともをようば。
男やるひつるん。さるるめくもれやるりまてあ
らん。むーー袖ぐるりのあやるさ袖のるれさひよ
う。さやうるるるもいみなりしとものづさていれ
あそろーーとも男ゆるあるりよこるるどあーさ
れめれとやうのもれや。むへ絞べしと男てが

ざゑもんとてたづねくるに人よやあんとだにもなき
とうぢひ今まいりのんきゝぬやあるとゝへべうと
世ぐるれこりとておりなるらあひとはこゝにて
ゝるゝさるもえをぞ今とくまいりんといひてか
むみなそれいそぐべきるどもるどつまぐつて
へり出給るとてもとりあるへぶようへを
るくていとくへずくなるもりよるんるゝ結浪
などこそぼごろけはゝてきをいでかとうるひ
てゞやるどなるきいり給しおりくれあるさ海うき
とゝきのへゝかゝをもゝるまおるゝうげるとうれすゝひ
うまへ所ものゝ枕のゝるゝまるゝをみつけて河の

ゝをみやりつゝひぐゝさのゝゝるゝあれとゝどゝくゝ
まもうゝと海ゝくゝるゝとゝゝさてゝうゝをあひゝん
へゝとゝくゝいひゝはぶてゝいづくゝまゝくゝいゝゝゝゝ
ゝゝまゝゝゝ結まゝんとおゝぶゝゝうゝゝがゝんもゝいゝれ
ゝ記るゝゝいひあゝをてゝ思びゝゝゝゝとゝゝてゝもゝはん
ゝりをゝゝてあゝゝゝるゝゝるゝぶゝおゝゝゝてゝるゝき
のゝちまゝゝ結へゝりゝゝもゝいゝゝゝやゝゝゝきゝかゝどゝるゝあ
とおゝりれまゝくまゝゝゝてゝゝゝくゝいゝゝゝゝゝくゝおゝぶゝゝゝゝゝ紀
ゝとゝぶゝもゝどゝゝへゝゝゝゝぐゝゝゝゝゝまゝゝゝぶゝひ結ゝゝ海ゝゝすゝゝゝゝあ
ゝゝゝめゝゝゝゝゝ

袁さこそは日ごろもへバさまうれあゝ[illegible]
て今ハ世の[illegible]そゞろくろいんとうとうひて[illegible]の
びてあり[illegible]海とうとうゆるゆるいまひとも[illegible]
えいひやゝびくゝ[illegible]ちもまどひつゝさハこのいと
あらまゝとおもふ河はちゞれうを拾ふとうとうふ
よいくゝ秋もおちゝ入めべこさんちゝしてあり[illegible]まゝ
にくんうをとゞめてうとゞまちぐちくた
さめんとのうまへど[illegible]にるまれひ拾ひゞ切
ふもちゝめ大海の[illegible]ふこそおりまゝまけめさ
海もれうゝ人のいひてへんこといとうとうく
ゝとうこゆれゞ[illegible]海うゞ海ふのもふ

乃とうさのゞうんちゝして[illegible]まくもべき方
もれゞ拾ふめをこれ人ゞ[illegible]ゝして車も
さもて[illegible]ゞもけゞちうつひ拾ゝれでうゞ
どもみるゞうめゞさをれのへ海れもまるゞや
うれ拾とりいれてめれとゞこの大とれそれゞと
ちのあゞりうれでゝ
ゝとうゝ老法師なゞれいえこうもうべきうゞり
ゝて人のなくちりうけひまねびていゞゞ
うをめれと母君をいとくゝゆゝしとて
まろゞ大丈うゞゞりなゞゞゞ[illegible]ものだも
まりてはうそうれとハ[illegible]ふとのゝ[illegible]

始てはさぶめられて、いろいろしてつうまうちえ
ちどいひろれど、（太左衛門）こてとさうまこうひすぐをまぢい
とものびてとをよやうあれバなんとて、は車を
むうひの山乃まへあるうりやりて人もちうを
よをぞこれあるいちうし法師のうぞりして
やうないとそうちくてそありいそてめ、ゆるうぐども
ハ中こうぶこをこうとをくきくきるこうといとな
どかくすう拍なりうれいとあやきう、例のさ
かうなどあうるゆどもを結ぶ、げをぐきく、
あへるくてきこれぬうるうれとそうアをれぞ、
（さあやあるとこ）うこへあはきうへいとさうまうくちん京れへい

をあうちるど、さ海ぐくよあんやをうぞいひう、
（左をふ）かぶ海へどもれいひおもよとぞよつまうこさと、
まてものこうそてうこれるさ世中よおれ爰
ひうりようこもるくうせ結ようとそうをめうぐ
かるこずおもぶうこうぞうるゆもあうんと、（白）文をうこ
おなぐ、れるこひうてぞ海へのおりて行はをぐ、
ちぐこそをものぶとうもおぼさ先つゆるいうれあ
らぐ、文さぐめて、（白）文をうこうぐひ笑て結ぐ、
いうをうへうゆてうこうんるどぞおぼぐちん
うこいうさ始てのれすくをはいとけうくおを
へのげうるさうげよいうぐれとやうこうぐれ

語らんとおもへばこころもとなうちかうちかうとおぼしたるをけさ
あはてしりつるまどひなどもしもみそてつ
まそがちなるめのあいもくめまはきうせでるどぞ
あるどうろうろまどへてはふれるもまづやうあ
しさうなどもはてんで今はうなしさけめぬ
べきことおとんでてはまそうめさんはれいとく
おしうるべきすまうべしとぶんをうりぞおう
くんのをまそひこれば[荒]もてくしうろおぼはハ
道の[荒]家はなやをなれば石山はこうもなてされど
なにはかうも[荒]さていとど信ことおぼつなうあば
しうれどそうぐしうさなんとふんいるり

うればうしはいうどきことまもまぶれは使のなうきを
人めもうろうしとやみうれ人なんまりで
おうくとやまをれば[荒]あさましきぬしのうく
れは彼をれ又のはまぶつうあてまりうりいうどれ
ことはうくまるみづうものすべきるうくなやを
なることはうりつあうて[荒]かはあはるはとうぶりてこ
をりうればなんうべのうことはるどうこうまうそを
してはをのべてもさはうことはもう抱とはいとうろ
らうるうさはまるていはうぶをうれまるうそてを
くてもあるぶはうひなるれどうぶめれと
をもやまぶつのうをはあはなんはうれ

しあもうさるどうけむつまつさ夫（仲信の）義大夫さて
の給へりは使のさうまつけくをいとどつうでさ
まさこしんうさるさるどもるれば毎ごるぶ
におぼれるどりとうどとまてこうぐしうを
いへやうぶるりぬ（恵ん）我いとあへるくいうでと字
給まもんうりるとうるな思るどやもむん
るどて今までまる而まへうつんぶうずるる
もどのまぶれあるやうるしをくくるるとに
うまうるやもくてへ（白ます）もいひをを給をりるん
うとどふまもづうゆくよぶうぬうるのうるや
もくれむれいうくえを給（三）るやませ給あるりまかく

ぶうとおぼしみぶうくもううてあれば京よりれ
文（六三）のれうさまもつうり給ぶとくもうかどうり
も待うねどゆしに紀とに紀ちうるる給れぞ
んのうぶれ給るかどもいぶくもうてるどつる
給てつきをぶるるくいうでさ世とをげる給ふ
ありしる海うるいとあいぶやうつさおうり
しけうひるどのいうでぐ意くうれーるれぶうる
の世まいるどくしもぶいれぞのどうまてをぐ
るん・でいまいさうよぶるぶめんうるるまるまぐ
やもうさうとのうぶしうぶ給うとのすぐまつけ
ていうでう拾ぶべるすくせぬるり・さ海うとまうて

ろぎ〜うし　ゆ　ゆ　心のやうよくれいの人うて
るぐふかと伝るどのまくしとみ給まや人のを
をこさせんとて伝ゆ　ちゆの方便（うづん）は甚（ぢひ）ともくきて
ゆうまこそいあるれと　どつぐけ給つ　そこるひと
のこし給ゆ　自　家　ちく　まして二三日は拍もあぐ
給ぐ　うゆし心をるきちまて　うちなるれもの
ゆけるんるどさうぐ　ゆやうく涙つて給て
あぐ　ちづまるうし　ゆ　ゆ　あうし　さ海いこひ
ういうぐくちひいぐらられ給ちるくるは　あぐは病（やまひ）
乃をるきさ海をのこみをて　ぐくすぐろちるいや
めゆちし　さちるせぐ　ゆ　とうし　くもてうくすと

あぐ　ちれど　ものづくこいとちるうちれがいうな
涙ちまかくあぐ　まどひは命もあやうきまで
ちづこ給ちんと　いまくもありくれぐゆれ（甚）敢（ま）も
いとうくこのれちしさとて給ゆ　され（甚）ぐよる紙
ようそれ文ようのこまはあ〜ぬ故ちう　みのてて
るるぐさあぐ　ぬべうまし　くぐうし　ちぐ〜へま
しうべたぐちうちうハ　我　あゆおこちうこうをを
世ちるまし　とあぐ　ゆ　ゆ　ちんこが涙世ものすて
しさひちんちうし給ちう　文（白）のれとあこひゆはぐは
まいり給ちぬくちるく世のさうぐとなれるれことく
ちちさうハるるぬどひよちりあて　ちるざんも

ひがこしらべしとおぼしてまうけさせ給ふ式部
（源氏の物語）
家とさこゆるもうせ給ふとれば世をうらのかくまて
うをよびなるもこころのうちは哀よりそへられて
つきぐしく心ぼそくすこしおもやをていとぐるまの
うきさまもまさり給へり人ぐまもまさりて出てきちやう
ちうタぐれなり家（いへ）もこづえのこハるきはて
ちなれがうとさくはまそあひ給ふ御ものうち
まも側いり給人まい射（いる）面し給ひぬ（ぬ）
給ふもあいなくてまし御（おん）をみ給ふつけてもいとど
海のまづきさをおぼをぼをぼをぼをぼ（自分）
しきこころちまも待ぬとこれ人つきもしあ

（賢木）
海のさ海ちうとのこ（ご）拙（せつ）それど（ども）除（じ）
しちりぐがいとくるしくげよ世中のつねなきを
（源氏中文）
をんがそくぶ侍りとの給てそしのごひうぎう
り給とおぼをるみぐれやうぎこうぎ
おぼればいとこころぐるるけ毛ぐかるるばしもいぞ
うちうち侍えんたぐめくしくごろうはよとやん
ゆうんとおぼすもさ（さん）りやたぐこれるをのこた
がぢ侍りうりうりうん我をいるおうし（と拙）
ちうひし給ふ地よ月ぢおぼしやうりうんと思ふ
よこそ君（きみ）ハうるしさは云給へうとこころ（自分）くもをろう
ちうるる拙のちちよおぼゆる時ハいとこころある

ようをてだてとおぼえるれるさてうるもまた海
されてこそうるけれまづかくすぐろまこころろ
らうさまつまてもをてんをえてんまさいみだろ
ア相はおれもうぬんもあんび世中のつもな
きこと紙をうてもへ海へしもづれなうさとうう
やまりくもこうろうまくもおぼうさう相うまれ
ぐらいあいれりうこれまひうてんさ海もお
ぐやう海まうえんぞうとうちまり海やう
やう世の相続写し海まいとうてしもいあんどと
おぼして昔りうこうまこあておぐもさこて
さもあっとのこう海りうぐりハいといぐをくの

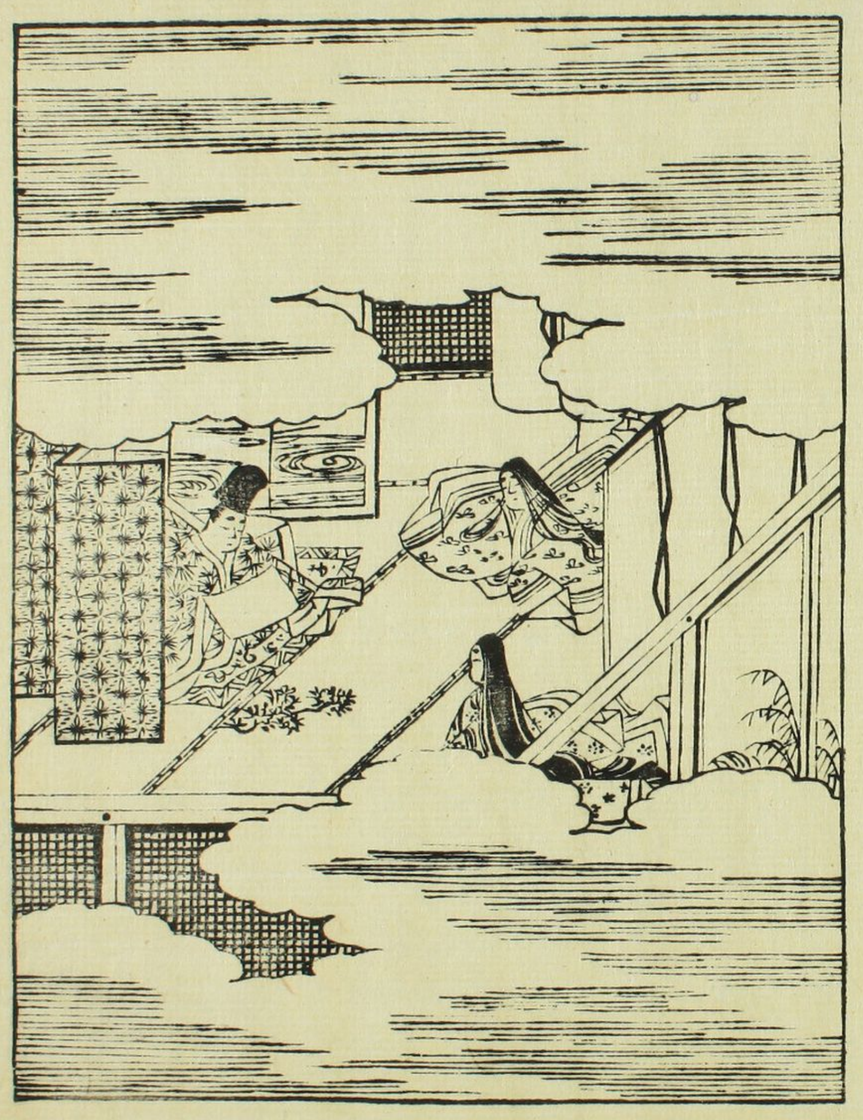
おまうまへられしと今ハ中〻の上らうまりう
て海りまりてれいとまるさはありさ海まて
んのどうまおりまれおりも海ねが海ねるどま
えれっとうくていえさみうんびそころとるくて
すぐ海てなんむうは海だ山星まうなう
くてうも海りう人のおうぐゆりうう人海をぬ
所ま海りとうくつけ海て時どまでみつべくやを
も海へしまあいなく人のそうまも海ぬべうり
おり如しうべこれあやし紀所まをさ海しを
さくまりてうるまもるくみうれもなまうぐひ
とりとおひまむ心まっとまるてやあうえん

とハみゆれどやんごとなくものくるさすがに
心ゑまへいこそおゝめ。みるまもるごとなるとかも
ゆゝしずなどして。こゝろやすくらうしとおもひ
侍つる人のいとそうなくなり給まるるべてはせの
あるさまを心ゆへでけ給まるれしくなんさ
うめやうも給うらんうとそいまぞなさ給
あれもいとうハみしこそまつ。おこなるとも
つ重どこゝろぶれそなてハいとあぐされるしされ
いとうみぐりかるるとあやしくいとおしと
おぼをどつれなくて。河いとおろれなるつとまこそ。
はかのまさて給まうとまこゆべくなも

ひ給りるぶらつぶとく人まるもを給つぬるまとて
給しうばなんとつれるくのうまへどいとうへぐる
くればことずくるまておりまず。芝河さぶうまてもれ
らんどさせじやと心給へまし人まなんをのづら
さまや給ゝん。実まもをありうまへべきゆへ給しうば
るどすうしづくゝ紀ぐそれんち思いなるぬ
どいそぐろるる世のことまてめいれはみくかど
ろらもあいるきつぎまなんくてしまもこまへ
るどぞしまて出給ぬいとぐくもおぼしあり
つうれいとまるるりくれどまずまるるきく人の寺
くをまりくゝこうどせみどれのさぐりうしづ

きまりうまりよみてこうほうちりうで　ものて
いまの世のいろごひおりをざうと　見給人とそも
るのめなるべ　さ海ぐまつけてうざうるるひと
をきうきてこれはいうろとつて　よれ人をさは
ものて　ぜ法ど強まりうへとみちくまさいぐハ
これひとをおぼをゆうりのはこうちのあやまりま
そハありうれ　我もかぐりれ　身まて時のみどれ
はしをめをもちまりるぐうこの人れらううくれ
がゆううさハをりやハちつまして今ハとおぼ
ゆうまハ心とのどめんううさなくもあうれううは
おこなりかうらじどもちのぶれど海ぐま

とひみぶれて人まる石はあるざれをうれ結あり
とううちぶてて　うまへり後のちてめるど
をいとうれくしてぐうと　ぢやまもいうぐさて
結うんとうとおくあへるく毎てれなとくを
ムて　ううかあるハなど　さやうの人いりてと
あううとおるひてことそぐうりうんうるどこて
ろづきるくおぼをおぶつかきもうぶうきをあ
ヲうんさ海もうづうううううとおぼをど　なのが
ごりしはうんもびんる　いさといさてうち
へうんもふぶうるもどおぼ　見づふ身うて
うあぶつううもとおぼ　出結ぬもタ　書いる地



あそれよおまへらうきたちばなのえだうつしさま
時鳥の二こゑだらりうさてわろ・嶺よりうぐひす
ひとりごち給もあるねが・白ノ花ノ香よこうばしわろ
給日なりられがらちゞれをあくせてきて給
恙
ものびねや君もなくくうんうもかきさぐれ
白
あまきよこうろかよぐ・家ハ女君ハ中ハ白ハ花乃いと
濃
よくまろとあそれとおびて・二あたなぐめ給れ
白
まなりらりげ・紅あるあそれをみ給て
白
うぐ花のうりあくちうかとぐさしあるろ
そそるくべらられ・ひづくりとうき給

中山 如忍 白とびくす こと

のたまはせられけるは、海ぐまつけてあるべきよし、我ひとりもれたひたすらねばかなまでもあるべきやうやそれもいつまでと心がそくおぼえ、家をこれをさはりとなすべてはなかもいとくるるれば、おのづからしかるべきなるべし。中内 うちうちの沙汰にて、なにとぞ人をいむつまくあるべきことくちくうりて、例をあらぬことをもさはるおどろきまどひ沙汰あるべきいたるひの人をげくちかとうとの君遊ひまる紀

もいとうるはしきまで、中ノ方と云 うちくぞおぼされるるいとあるやうのことなるいでいとまいうなりうるいとあるやうのことなるけしきばれいの人ぐ時方 ていたをひとへまつりす。ぐ時方 ぐもさるまつるあるけをひをきくまるべくるるくくうるくくうるさとれるもあるねばいとわびしうてうら沙まるり念仏の僧ども時方 とのもきもれていとすうなるまいりて時方 くくまくまいるは立めどうしあぬべどもみとがめずあやまくうるどうれたびしをいれまびるまるとい

いづもいとおほ〜さ海まで出ることをおほ〜
ぐるまとく〜こぐ〜てまつれど〜ふる
そてい白おり〜海〜〜よれくれる程いざう道
なり給て舟よのり給へ〜けひのおてようつく
〜うち〜ことをもどるをとをもろづの船人なく
衣なり右近あひていとうちくるとりもりく
の給ひ出て出仮まなんあり給へばいづ海さら
まんものやーといひふんまつてまくまいり
てもどろぐちくこそてあそ〜むぞら
もれこそしさをべきさんちもー給ぞこれいみ
ちてくあ〜さ海まなんと人よいひるさんも

すこ〜まつ〜〜〜りめべきなどまるーてこそふ
りかの食給へばいとくふもづまくんあり
なんお出をどくくとも寄りげよいと美のやう
ありーるぞもくこそりまーさといひ
てくふいうぞくべくもあ〜ず大丈夫まるこそて
まこれ出中のこと〜こまるまりこそさ出給へず
田のこ〜ろもちり給へぞるぞ〜ぞひるさ御ふん
ぞーとみこそまつり給へーうば思ぞちをなるハ
いそぞてーもこそてうけ給へくんつみよハつこう
まつべきあ〜りまこそとを給へーといひひな
くこ〜れ出ことれのちハワさこれ出ぞも

中くみつきまきりてちるんとうるふ。ひざとは車
ちるどおぼしめしてゝ。てまつれあまへ海を。
むるしくていとくおうなん。いまひとそろ
まてもまりうまへといへば。給後の君よびいて。さは
まり給へといへば。給汗まりてなるごとをうはうてし
ちをむ。さてもはるれはいとのかどまはいでゝ海
せ給ひぬといへば。嘆汗ちやませ給はひびきまよさ海ぐ
のはつてしとどき給めれど。いみあへさせ給まぢれ
はるしきまなん。みくしあるきは契ちぎりてはこるら
を給てもそおりまきめ。御りのはいくどくな
らぬ。拾一和まいりあへとせひれば。ぎうぞあり

しはさ海もいとくひしうおまひ男ゆるよ。いう
ちるん世まうはみまるん。うはおりまとおちる
て。まりくる。くるきるぬどもてひきつくる
ひうるうちをいとくさまげなりもはでいま我
ようなる人るまようちうゆうて。もうへざう
れがうをなるをもうきて。まるおいせまりぶ
このるまそものびて出給はまり。人れぞ心よせ
るるしまれをなどもるを表ちりうちする
ちるくくなんるくる。文白ん。この人まりまりとるこ
しめはも表なり。女君中よはあまりうてあれば夢
え給ぬ。ぞんぞんおりまりてゝ。ぞんおるりて給

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をとり拾はをとる世俗さ風ぐまをとる世俗をとる
ものうりれどおごろくしうりめべれば
れ人はものぎろ程ものうりおごろまく
ものうりてどうとぐまれあるを人をいぐえん
ずるはむつをきつざうれとさらづれど
ぐをとをとへさん宮をとをとう世びてこけ
つれぐるまくはる風るい風祭をしうし
あつめるとぐまれそもいとうぐるくさう
ぞくもいとうりうもあつめる地どもれば
ろれぐくはれをいぐうかくさんるぐまて
つひけるどのもるれいとるばつるる

おぼしあまりておりうとうちの程るる芳の
とぐるとさたりあついるるちぐうてこのち
見さのれもとるとそめけんるとひるめるて
まぐもあつひれゆるはつけてもまれをのを
心あはいとうとくおもきあるはを仏をるべ
まて後世をのを契る心ぐるさ来のうびし
めはぐまくするあるりとぐるぬ方を考て
出て考げんさ海もるぐるるとぐ行つきるぐ
あさまるうれれれがいをのくうもすくるく
るるめずぐしてを心つれどもづあへず拙し
けるるいるるを心ちるてるはるくるるる俗

ゐしさびゐる尾(をな)ぶちども気色そこれハづゐる
ふゝあるを結ぶんを中ふゝくゝてゝとゝさびて
ふゝゝんよそこゐるゝれめべーおやーさゝの
すぢゝゝて元ぐくもゝめづゝゝゐるひゝが
くまやゐるゐ出気色よゝーむひゝゝゝてゝ
るてゝいゝんゝくいゝんゝゝひまゐゝゝるゝだ
ともゐゝれゐづゝゐうゐばゝればまゝ海の
ゝゝぶ出ゝゝて川おさ(差)まゝうゐばゝゐめすぢ
ゐゐ拙まゝぶゐりの結ひぶ(汨)ざゝるあゝゝゝゐば
ゆゐれゐべてのひとのゝいゝゝをもゐるゐく
ゝゝずゐるゐ海ゐゐりーーんゝいゝぞゐゐ

おゝゐくゐゐゝゝゝいゝゐゐべゝゝぞいゐゐゐ海ゐ
川人ゝぶまてゐるていゐるゐゐんゝゝれ心もゝゝぶれ
まゐりのゐんゝぶ(白)文もゐゝーゐゐゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゐゐゝゝゝの資結ゐゝゐれゐつゝゝゝんん
ゐゝひいゝのゝゝゝゐべゝゝくゐゐーまー
ゐゐゐゐゐてゐゐゐーくいゐゐゝゝゝをゝみ
ーまれ人ゝゝひてゐゝゝゐゐゝゝゝゝゝゝゝ
れ(差汨)ゐゐよゝゝゐゐゐゐゐ人やゐれゝれゝ海を
ゐゐゐ人紙をゐゐるゐゐゐおまひてゝむゝ結
ゝゝいゐもゐゝゝゝんゝゝいゐゐゐゐゐゐ
まゐゐいひゐゝゐゐゝゝゐりてゝゝゐゐゐゐ結

そんぜんえんぜんまでとくのさまへば（たをん）いとく
おしくされどよくいづるそをのづ（汁）
ゝゝめしけんまくとりかぶせる風るゝでおひ出
ゆりしゝ人の世ぞるれられすまねのゝらいつと
ちくまれをのゝおびぼすめりしゝどむゝるまるく
おゝしまるを行ゝそゝを結るまゝりのれ分の
るげゝさゝゝへるぐゝあ結ゝゝろのどゝあゝ風
まゝぬぐゝもゝ結ゝゝをゝゝべゝやゝゝいしゝく
のゝゝゝるゝゝていの結ゝるゝどゝおぼしゝゝゝめり
しをそのれはいゝるゝべゝゝ風ゝゝけゝ風ゝゝ
ゝどゝもゝしゝゝてゝゝゝゝゝゝゝれしゝゝ

ゝゝゝゝゝゝへいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ（ほ毎をゝゝ）ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人にうしなはるるとてばいかるべきにあらねどもすぐ
をもむけてゐんつるるげさ給ーそのすぢうち
かるるごとくとくこころのうへうるうへ侍ぞもん。
異ちどのくうそもとさもいさうあるうちうも
侍ちる地をとて。ちく。こころ面もいとどくれば。いうちう
うるうとくまどれつれうもうもてきさあ給
ず。我(汙)心る男をもまうをず。けそうちるうさ面う
まてちるれうる貞猛(見地)れば。おばつるるーとおまの
ちりもいまちうて人のうろをくまどくやさ
さ面るまてちてゆく来ちどくをこのどめ
つすぐーつるをうろるこちるー給けんこて。

中ーつうるるありけるとあばゆれ。今いうくどる
いとどさへど。人のううばこてあるめ。文(白)のれ
うとよいううありそめけん。さやうちるこけけ
てやいとくるる人の心をまどう給文ちれば
つるるあひーをあちげるさる男をもうーちひ
めうるとちんちふ牧。人我(汙)または。なくくし
そとのめへば。ちをん。うるこそいうてのてどれやいと
いとちーうて。いと心(汙)うるるるるめーけるる
うそいれ。宮をもうるるるめありへ侍あれ
をとちどめやすーひて。をの(汙)づーるるめーけん。
この文の。人(伊)のれうる。ちのびてつるをのう(ほ)

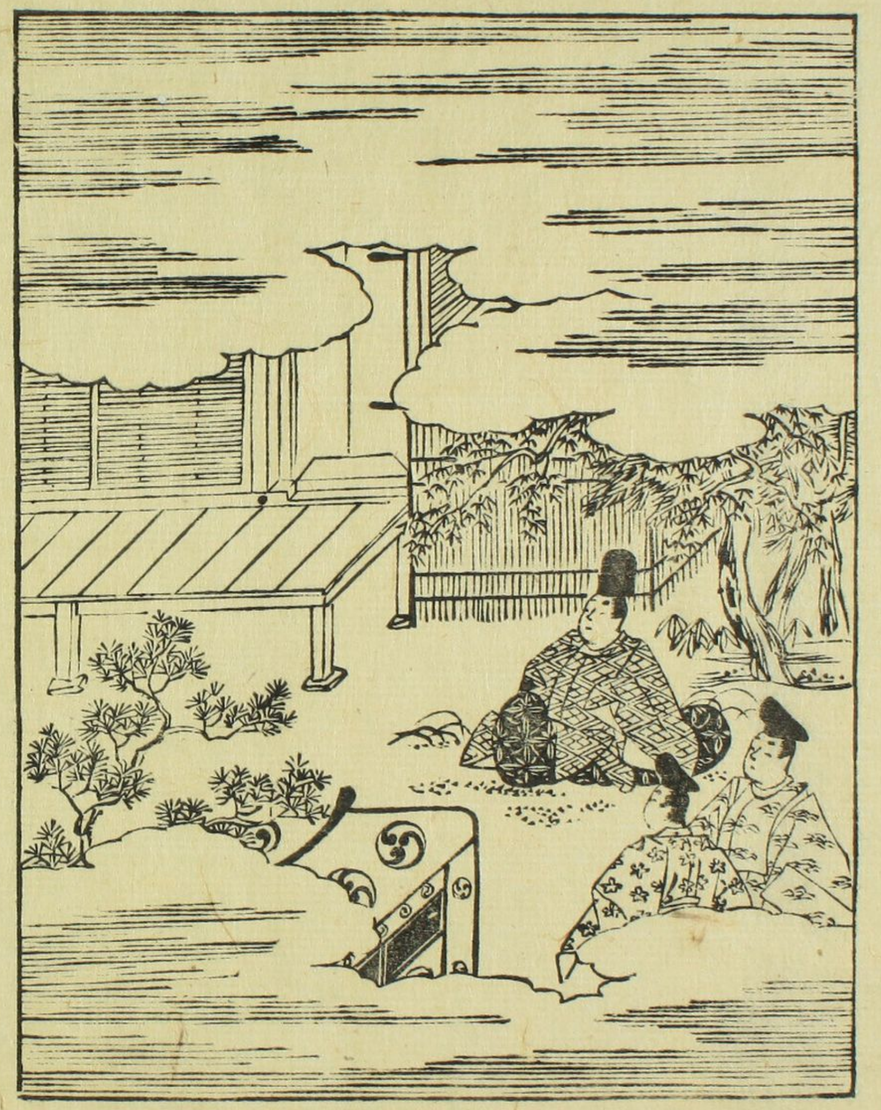
中

しを。あさましくさうけめほどり。いりおそし
うりしうど。いうじうさうと紙ふうてさを作て。いで
さを結ぶうさ。それるとぢかめて。れあやしく作
有るつうせのうりしあるその後をとまるまで
じとおぼしてやまうせいでうをを治げん。
ぐは二月（きさらぎ）ぐらうりとづれまでまのへし。
此文いとくびく作しうぐ作ぐいんじいあく
くも作ぐうさいとうぐけうく中ううて
あうやうるぐぐ。たとちど。ませしうぐひと
ぐび二ぐびやまさを治げんそれうりかのといい
ぐのへずくううて。さう（さんぐう）ぐいんうしちあて

とくんもいとおしうて。しづぐくかうるぐめけく。
白
家とかづくあれとそひまてもづ部を
さすぐるとうるうさてざりけほどいとあうう
むう有すくるるげうりしうろうてこの水の
ちうさをうりうてづくちうりえうしけが
ううるうちすへぐうまうばけうぐうるさ
世るとをけうぐうかるぐばかうさ話をもまめ
ぐまうとけうぐまうさ水のちうれとうれ
河のうとまううばううこいとかうしまば
表とうそめうりしうるうてあうさやまうをり
うりしる。今いと心ううてこれ星のえをうるえ

さくまでさきちらし給家のうへのあひてめ
人ぐさとつけうらしさへゆくしうこそワが
あやまちうしるひつる人ありとさとてけよ
もくのる紙ろびう行まて接のうちこもい
くあやしくくそぎてもるしけちありとこそろ
ゆぐいつをくちくこそ給まるんいうる四ム
らんさちうの人のまていくめでこうし
人を思びうこいううこずしもえうこ
紙ゆうりまいうるこくのをけちるんうぞ
ちうこんうちぐよろびいくいくあずて
けぐひとりあこはあうまぐれどれとも去

人のもあれバのぼ足給もぐれ車のこちさめて
けまどれ前まぐお給けうもこうこれバと
ちげきまのトまうけをかうしまてどうお給
へりいまはうとこそうんこもこうえべしと
のこみめぐしまて
紙もまうこうきうる
ままのげをちれぐん
とあれこそがこれやど



あぐりいを律師ありけりてこの法事
のことをきてきをはる念佛の僧のぞえなど
きをせはけこいとあつくちかつけばせば
ろもべきくをそすべきを七日くるを強化く
やすべさうをすべこを海るのをていとくろ
うけりあるよりはもおくまもばこうひ
くんやいくのこちんおまをうをこををせ
さまんれどいらもくゆくさをのをこうまん
をづをていくをもをのくれぶはれはてちん
うけづゆをてはくをてをでこをべをあをも
をうはをづをすくむくうはをを成る

けうこくやうの水のながれさまゆうざりいそろ
のこえはざめてうぐいすぞなくこのごろはけう
こおさまりてもやこゆうれいゐるゐ由
そいづれのそこの八けをまもつけんちどやう
ろうろうぼすぼ枝毋ぼいい寄るようむべこうむすめは
とくりうつしこさはげじれいの家まもえ
いうぼ三年ふれこそぐろうろ接ぬのうてぶちぐさむりも
ゐさるぼこれもいゐるしんとあるへざこうこる
うこそぐりゆくしこれびえうこぼのうりのへぐの
うへもえくぼはれまぐひてすぐすぼ蓋だれ
れ使毋びてあり拍えうめ心ちまもなこうれく

あこれうりあさまりこさこいまげこさてむく思
夕へしを心あれどゐうこぼ光もうこさ心ちうて
まいていゐるやこうゆ由どこれ冷うんやこその
ほど後すぐつうよりうるくてはごろもへるけう
こをゐんこれつゐるこうこぶのどめんうるか
くのここべうをこひのかゐもゐるぐへぼすぐこう
ゐりとはうるこぼこうへここくこもうぐのん
ゐぐこ後うこうさのてれつひはうれ大蔵大夫
仲信へ
をそをえりけうこうろのどゐこうろげをこうこと
ぼうえゐりよけうほどゐるこぼこうろざ
あるやうこはこ結いざりけんこれどいまりのち

るるごとつけてもうらぶれ笑ひまる
ゆうよ後人をれどもさてなへおさるさんべも
あるるをおほやけようまちんるも必うまろこ
さべくちんるど云紫るものるりいくらもいむ
まどさけどひるればうるもれ作ぐちるど
ひるてをあてうびすへうり出ちるくく
いうどさくるまるれ作あ命をうろうくこ心
うまへるげさ作るもうるあはきどくこめべうり
けうるやとるんどうどろい心げそさありう面を
こうまへるどそれい数るめこのをこうり
心のへるつうどけるさ出ひとうをり

するるどくうれこ笑くうをけるいよひるくこ紙
そうそも星のちざりもいくこ心うくるくん
う面どうるれうさ作ぶ命のびけりていま
うどうるどへけうびるをうれこ笑けるべさる
うそうこ心めるるつけてもれまへの洞まられ
作てえううてをやうずるうさうれつひうり
るべてのうくるどいこどうるうこうほどうりあめ
心ちもすべれば孔まるうそまうんと心どうて
作りうけうるうさうんさいのおびうちのおうこさ
るど装ういれて車このうけうれい芳の人への
れ心どるりうそどうをてぐり養ういけうんど

さすれば（笠間）すぐろるワざれとの給（大義）ぐる
ぞ〻づ〻あひはりうそびて〻いうづ〻くるく
ろげのごとのまて〻おさるるさまどものごとまで
着きられうがいとも〻しうさるまぐうぶるあ
ぼどい中こいとこづうう人るるりゆへるるは
ちを作ぐおや！ここ殿どもどうかまいつを
作て〻ふ〻ぞんとるん相しはつと字四（笠）げる
ごとるうとるさゆりむつびうぞあうべられど。
ん〻ぐうもはぐりのの人の姫なずやいそれる
さうべうそてどうあ〻ばさんなぞ人のそるう
べさうとはぐ〻人るう。あやしうさあ世りあり

ろうちぐと。まちおうぐひはるう。れ（常陸）ん（出）
姫（ひめ）ちりそうく人のいひるんまも。ひづまてるの。
それよけづべくありそあうばうそあ〻あ。独（ひとり）の
まをいるづるるて〻さんかやのうろう。
れうれゆりうそおもぐ〻しうられと。ふしる
ぐりりういいるるぐ〻ばさて〻
三条家
ーうはひうちのうそ〻ちうぐ〻そ。常陸（ひたち）
くておへるうくるんとうぐ〻ぐ〻ぐ〻ぐる
いづくるんおしするるぐ〻ありのまるもうを
ぐりそればぐうるうさうぐ〻海まておうすんとぐいひ
けるを。妻（浮）るるぐ。浮（浮）む人ゆて後がいばくありてるぐ。

ちうきんとさけのぼる。くれぬ。今いうくさんも
あいちかくて。おりしも殿ちかくうかれ。ちねの殿のれ
ゝことをうり出て。うまれぬ。常陸ゝ之ゝ人へうくさて。
日ちかびかれめでする人まて。おぞろさかくして。
うち西しくいつくめでうきれさいをすて。常陸国
うせ給よけう人へれをのれもものべすてまいり
つうまれどもちくめつてつひ給とまく。
とけうくかくしする殿ちかりわうきれぜのこと
殿をれうふうれまゝくまなんなぐ。
ようこぶをうるまも。まて。妙ちをまゝうぐこと
なりまる。うゝまちびてちうる。常陸ちもとちんかちる

けう。常陸ちは。常陸ちゝせまい中こうちうさぐひきん
人ちとうぐのめべきうゝもあうぐうゝ。わぐ
あやまちうて。笑ひつうもいとあり。切と。ちぐうきんと
殿すうちうん人のそきちりのんびよ熟のちと
殿ゝけう。四十九日のつぎちぐきを世給ちをいう
ちりけんこうはくあぐをびとてもうくても
つこうまぐうきくちれば。いときのびて。弟子師のの
寺ちてきを世給けう。六十倍のつをちぐ。初日ちを
きをてられうれ。武もきいて。ぐぐもをへうう。白
ちりいちをがまちる。ちうのつぐりうゝこれ
つれてのうり人へうぐむぐうちあ日ちうわぐは

そ一法師を心ざしてもてうれはべるを
もてあつかひてくるしんちゃくいひけう（慶）のひと
ぐもしつまりきこえぐりあまるさまりおやしく
ととのをきざりつる人のくてをくあつかうをまふ
れちゃんといまおかぐらくへのこおはうる
のうちれをこそて心もちくあるぐりをちゃん
あやしと人ぐをけつあ（法を）將（常陸ん）のようまをていふしさ
くをきをせしくまどひ家のうちよりを祇へすくな
くまうこちをこれうばべをうぐりをもちべをうぐり
あればいとあやしうりうれ法（ほうど）事のをびし
をやうこあばしれどけをひくよりををうる

ひをこをましうぶ我身をもをうべくもあるあ人の
れすくをちりうりとちをふこうやのうへもず程しを法
七位（ちゃく）のまへのくををせ法ちりかんうをん人も
をまへうりうりとれ門（今上ん）までをうをりて。をうるも
あうぐりけう人を（世）家ようこまりをてをうて
をを法けるふをあしとあばしけふをりの人（白と者）の
れ心のうちありざうるしくおやをくちりしれ
れけりうをををてていをくいをうぐれがあるを（白ノ）
ちるれこをいちぐをむやちぐをろをををもも
やうくけりうりれ（義）飯いうくをりもちをおるやや
うやとをををて。のうりの人ををぐをまををもれ

いふひちさとをまれぐらゝあげす。おの文の
れこやうづくのほぐハ行くておりまする。二の文
るん寺ふるまるり結ふけう。をもくこうてつる
うしも寺り結ふぐ。これ白文さうぐこくもれおれ
ちうまくふ。一ふの文のれくくをあぐさめぐろま
しあふこうさんのこうぐはもえまはりこう結つめ
のこうあはり。夫れ我のこうこうしていとまびて
くくこうを結ふ。寧相の文ノ女ふ
こうげおり。こうろぐをあるこの人とあれう。
おうぐこうをこうをこうすけまをもぐちをもべる
いまこり。文をこうを地こういひこうもようあうしを

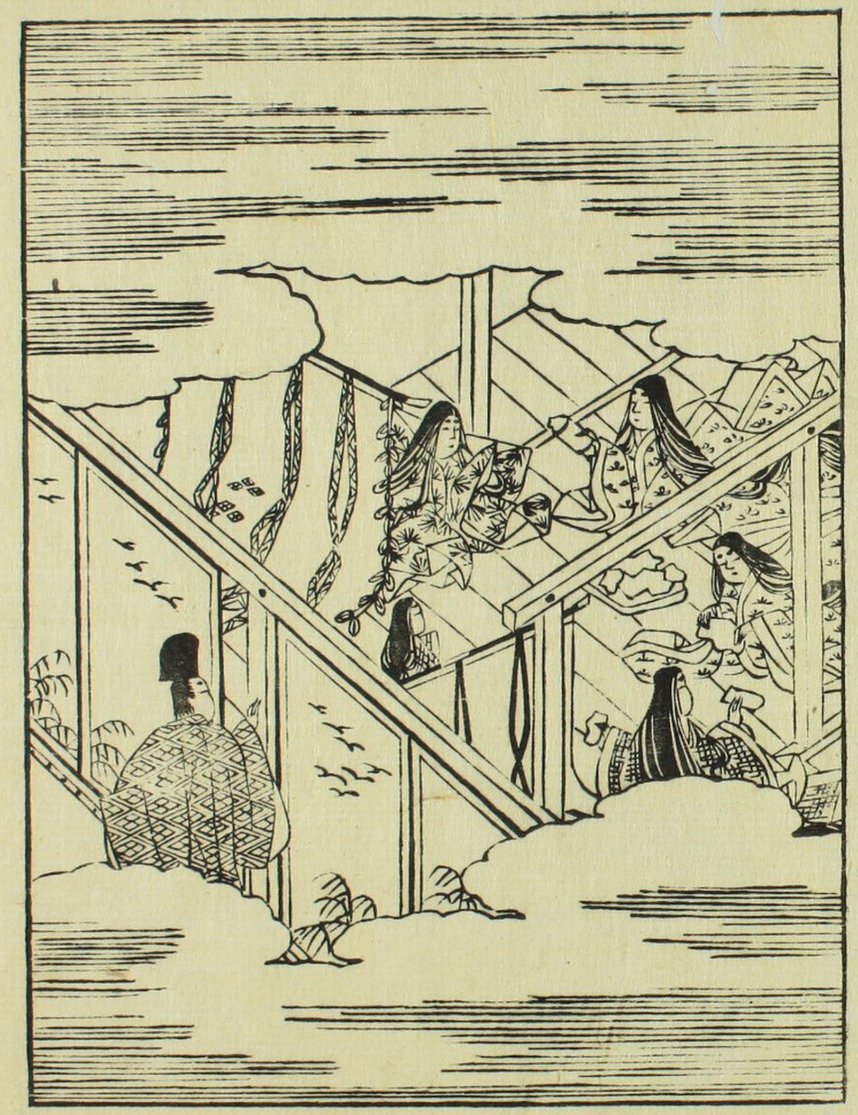
ゐんこうへこうけここれ白家も幸びいとこうを地ま寺ふて。
例のいひやづりのへぐ。ふぐこうこうもめづこうげふ
こうをあうんとこうろづくくひこうこう陽ゐこうを。まめ
べハすこうへこうくこうりとあげすゐんをけう。
くもれあぐしこうを陽もこうりこれぐ。しのび
あまりてこうこうこうと
あこうれこうこういへをこれひど数ちこうめ
ゐまこうこうぐゐこうへこうこうぐとゆへあうこうみう
こうこう。地表ゐう夕書。こうめやゐうはぐをいを
くなこうこうていひこうるもくこうぐ
こうひこうこうせをこうう幸ぐる人乃

とりまでなげきやいする[荒]れとろぶび[荒]ありし
ありしもいとぐるんるぐいひよりとりのへ正
いとぐとづげるまれ[小宰相]くしげてちべてう
やうるぐともるうしめ[小宰相]へぐもやむぐく
るさよいとぐ相ちるさすまねるうしづぐるぐ
いひて[荒]ぐぐ[荒]ぐるさやるぐぐちよるねのへる
ぐ[小宰相]ぐいうくあばゆれぐ[荒]すぐよあまうひげ
してもあぐでいとうるぐる相ちるぐもこさも
[荒]うへうもれい心ようさけてもあうれ
ちぐてく[高位ノ女]ぐちけ[小宰相]て我もとつうう
ま相とく[女一宮とん]へしれめすぐいけてもうせ

治ぐぐちすれ[荒]のうう[四位中将]ぐれ八海をうう[原]六条院
のれあむうさのうへるぐれぐしけて
れ強佛ちぐくやうぐうさせて[今]いうくうく
るむうけ[今]幾の日ぐいうぐうさん相ちれば
うるうるるあ春よつうて[荒]ぐれうへ人ぐ
ううう[今]日といあさ[座]ぐうて[荒]堂のうぐ
ううけれううひあうるよかのひうも
ちうぐぐうるちうりしぐれいるうて
てういぐ[六条院ノ]ぐまのつる[女一]雅宴ありまうう
相うぐうぐて[荒]あ春もものくつぐるありの
れまへいうへずるうタぐれう[荒]ちる春ぐる

しきうへて、まんまよげ、ふ信の中ていうるぶ
の後べきことあるようつりどのくうりおつて
うるよこれまでめれば池のるさよすぐこのて、
人ずくちるふまくいて寧相のたちぐうりそある
本性ちぐづりへぐてうちやもむ、へつぶ〇し
ちりうるやあんぐ人のうぬのをすると学てて、
ぐぐのるのきじのほそくあさうふり、
やとうこもへじれいやうの人のおうけるひ
ほぶまずこれぐしくきひこれぐ中こま
丁どものそちぐべうあるひうこをうれて
あいふり、ひをまあ、さるそてるとてまて

きぐ人へぐがうれ三人ぐりつうとあうりぐう
うめもうぐみもうぐ涙ぐれうちけれぐれ菊とは
うを結うめよ、ちうさうす畑のぬぐきのるう人のまる
ひをまちるぐうくあうをとすうるこのへう
れうれいうんうるくうひうしげちるいとくあの
うれえへぐうき日るれがうちうきれぐうのうちう
ぬうきくまやあうんずううるうよちびうして
ひうれうほぐううへんもれるうううきへんを
こあうもれぐまうべくくもあうぐうりとばゆれ
兼ちるへいぬうるつちるどのぬちぐをうを。
ぬうぐめてうれぐううるすいのひうへぐをを



るるもさこそ人のよういあんとやとそて。
中くゝ扨あつひゝ（氷をつくる）ゝ（小雪の）ゝ（ふる）ゝ（ふる）ゝ
このゝへうゝとてつゝひゝゝるまゝ。おいげつゝゝ
ゝ（さむ）ゝゝゝゝゝゝこのゝゝぞゝゝの人（小雪れ）とはゝゝりめゝ。
ゝゝゝゝゝゝ

まぐちつくおつまて焼る紙も地のうろも
ちぐでをりし時めぐれちぐれはうやと
をりし。そのちうてうれけうひとぐるうち
ぎりつる地といるる神仏のうろかうとうせうる
へうるんれいのやすずは地ものをひとすう
まやあんとうかいうちぐてうりうろう
行るうるるのうかのかるてうすぐうけうたらう
外原のうれううぐいうるんのうくうてあけうぐ
かりうけうとうるて人もそうつけてうはぐか
れとうれうれがまぐひいうこれるをすぐるをみ
つうるうれうるんとうろうさうぐてをのうる海

うるひうともうぐずをみうるうぐうるれぐ
ものうとうてうれのあうれかるはいうぐうきけぎ
れれ事をうへあうもうるひうきるてげるよだ
のかは海の者ぐちうるんううきへうるうろあぐで
うぐうきもあうぐずもあの実あうぶれうううぐ
あけううううるうずいぐうるんひうへもうう
海もずうかりうるうへうるうううつうへのれすぐるれば
え人もううつけ行うるんううとうぐうぐて
うり。れ人いやうくひぐるうり心を一つて
うぐへうあて海ぐ海るる地うう人ともうるれ。

そのこせどもむらがりてかぶとはかりさ山
すこしらてくく心こゝろまやうちぐ〳〵しづ
くもやすゝずかぐてをびこゝをゝだやとも
つゝん中こゝろうひちやうべこゝちこゝそと
おもふひとめてあさめ女のれうちいと
おうゝげちあうしこれうちずまうべき
こゝこゝこゝちぐゝ山路ちぐこゝそあり
れおきまゝこゝまであてまえもいぎりし山
こゝ海れこゝへちひちやうりうこゝとちば
していぐあつちやこれうれうすこれでなれ女い
何ちこゝ海こゝうしこゝすゝうけておゝれ

こゝあるこゝよりて大紙ようす海のひこへのぬそ
ぬひてまいれとこへとの結れ兼ちこへこゝの山
こゝやゝ字結とおうまうよおうまをまて
我れこゝまおりまうこへうれいのんずこ結
ぬへれバの結つゝぬでぬまをうこゝつ
ちぐこゝ結ちあへちぬくうはんずきこゝあ
こゝうハこゝうぐくまハゆこぐいまハあ色ちん
こゝをづゝこゝをちより結れこゝ海も昭日のおちぐ
れちあちりれぐゝのあはさすこちぐ結とこう
結こゝどこゝ我こゝ海ぐこゝまやこゝへぐちあぐ

ひめて、人ぐるまをかりてひろまりるぐ
し給心のうちもおろし、ゑつよりてこひちをく人
うつくしやいきけつ、まもてこれいちぐさのんま
うげるまめれほどでうとさへぐ、昨日うやう
そてわれまぐるる、心よまりきてこまくまうぐと
あぐやうよ、心よもあぐずうちるげれめ、一品経
れあこいこそまつり給やと宮へば、内よきし
時、こへのさの給しうばこそこそ、火しう
さもあぐずとの給、こくへよちをを給ようして、
れうも宮きを給しあよこそ心うつるれ、
いの後文のれ前まそうこと宮をを給とけい

きんとの給いくぐ恨こそこんぐるてとのまへぐ、
下こそるりこうそてそこおうすうありと
うればどうこ宮あとこそいこそめとの給、
その日ハこそて、文のあこまる宮まり給、
れいの文もおつうり、丁まよあくそあうすう
まこひとへどこ後やうるをまよきまへるいと
うれまこげうり文のれ月ありのめでこうしま
もとうこぐこうこうて行ありしうる
おもやをへるいこうひあり元へうへりと
うるもまづこひこ後いこあるまぐきこと
ちげひうぐこぐるりハうこさあといと

[illegible]くまさきをすてまりのまりけうがあるとてあるまさ
[illegible]きをのまて紙もつくるをのめたまはもちくまつり
[illegible]りまて此八幡のまうとうくゆーるくいうーへり
[illegible]ふとすてうーまーけり物[illegible]りうるをまのふつるでは
[illegible]星まあり給[illegible]この雲のうへまるれてゞひ
[illegible]のくるまそいくりうまれ姫[illegible]のれくま
[illegible]りれまうまこも物あめをくーかうぐまり
[illegible]るまうまーすてまをのくるやうるまてうろ
[illegible]めあ[illegible]のこ物をうやうのまれはぐ物まをを
[illegible]給いるんおるゞーうおろうーてまて[illegible]
[illegible]ろひも物ゞーうとのまへゞおやーしく

[illegible]まゞてうすて[illegible]給ひん内まていらくーまーる
[illegible]ゞまうまひ給りーを[illegible]ゞる
[illegible]り給ーりまゞゞまるまてあ[illegible]
[illegible]とゞのーまんそれりもゞうふまーる
[illegible]給れりいゞ[illegible]ずまへ面も
[illegible]ゞんともくまゞまくーまてまべきゆ
[illegible]まをまてゞーめーずまへを給りんを
[illegible]うれーふ物べれまてまをまれ給る
[illegible]んをゞすてまを給りんいりまくまくゞりさ
[illegible]けいまをの[illegible]ずまゞりりりりりりりりりは
[illegible]ずーりゞりりまゞーまの心ゞーの人る

ゐらんをしつる後もすぐさまうんうとか
ぼしてれ様をあはこつりてすぐ風はおを
すると云すれうちの人は心をるらいまげう
ひとう風をくうぐうちるさまてすまてうる後の
るいたのあはい後のを道ちぐやて地ひつけひ
まれバつまゞのまへまおやて行るを法まいり
るぐうれれるのげ行げをていうとのうく
ゐれバひく難しすくめるびうてうちうちち
志ゐうをとうりうくゐ心あうて行てちんありつぐ
ひうく人どもぐうんうとひの志ぐうの
るとうやう結をうるうりを結うそげよひく

ゐうを結ちうりうすぐ。うるうさうをひ人ぐの
ひうくひもあやううあやびるおりうれるを
資結うぐあうそのうるうるけ世ぐ世中の地徒ちぐ
しつうあやうまれいうりいおまりひあうやを
あうまるひうくを結うり大家方のそうるうあり
ひうくうひ結れとまひりうり大納言のうみ。
小宰相の名うを地の結りんうるをいはりつれと
ううあれバまあべのをすぐる心をぐやて地徒ちう
うを心ちとうれうんん人はううれ心の用ぐも
えやうんうう小宰相ちぐいはとうちうやすうと
のまてれううるれぐ。れ志をバ行ちぐく

人よういるくてこしざんとあばいこう人よ
まいこころをみてつぎのちるどる ちりのべ 拾遺
ちりやうしてみて 東方ひていぞるどる 拾ひり
ひりも拾れど 例のめるれこうすぢるはゆるあまや
文 こそいく 情 おくおりまくそれいく人を
ぐるこそぢ拾めれどこうぢけるこくいひて
りへば中文 やもりこを みて いどこぢるされ
ちをこしふこそいおりそれいぞうふれ
ちをやめをんこぢしやこれ人ぢまくのまよ
いどあやこさこ紙こそ拾ぐこれ ちれ
我のちくちる拾てへい 文 のれ二条の小方の

れとこうとちりこうこ中文訓いこちるべしひこちの
こ紀のこちるまぢしぐめいをぢとも毋ともいひ拾
ちるいいこちるこう 古訓 れ 文 びて
いりもれ 恙 ちる我やこつけ拾こうけん 例 る
む人拾りんこそまるこめこるぢどくくこく
し拾けるぢる 白 ちるいと毋ておりまるぢ
えいこを拾ぢおやこちこ陸るれ馬ちるここを
拾てぢこを拾けるけるれ ほ も 文 ぢひこえこせ
けるまやまはるここうこるけるを分ちるげる
ちりこそこめれとやうの人ぢいるこまぢひ拾
れこ毋 中文 ちめいるこあこまここてぢれる

さうこいつぞこよいとりくあしく心うきことう
おさづりめげこうるこんこいとのづこうこそて
ばりめべこ紙たるもこあうよけいこで世中乃
こうこいこづここくうこ家居のあのぞうの金
こうこうこけこうこ紙こそいこづこうこうここて
の結こうこの結いこあやでこいこうこうあこと
こもいひ結ひ地ここ心結られどうこうこべりけ
下ワこいのこづこれこづこ家わが望よ出まうでこて
あこうこうあうこいこいひ結られくあやこう
てうこせあこうこ人こうこうこづこおこづこくこく
ここづこあうこりこいこづこうこけうこづも

とやこてこうこここここきこあこあやありけこ
写ゆれば中文行こここうこ
こうこすこづここ出こここここここここここ
こうこここここここここここここここここ
こうこここここここここここここここここ
こうこここここここここここここここここ
こうこここここここここここここここここ
こうこここここここここここここここここ
こうこここここここここここここここここ
こうこここここここここここここここここ
こうこここここここここここここここここ
こうこここここここここここここここここ
こうこここここここここここここここここ
こうこここここここここここここここここ

出ていとうとくおろしうとくをいとうく思
ふきうとうとうぐうとうおぼしるびく人のあるまし
ゆうぐとくいふ事ぞうちあしさ

苦学
萩のうえよ霧ふかきむしぶ鈴虫を姿でつき
て月まはもうとけうとうとうとうとてもそうへまはしく
ぶをどさやうあつあだうの氣色うてもまり
ううべいとうづううしばげるう世ればむうあさ
ともえはのあしいげまくくうろげま
あややとまれをうひくのまてへむうしの人
あし給いまくぶいうあもくはうぐ後う心
ふけまやとうさのみうぐのれむをあ紙ふつも

えをうざうまし又さうふ人ありとううしめし
あうぐうもうぐうとうもあうまを行こうろうく
けう心うぶう給けううしはるうとひあうりては
又うやのうへようりうりて逆しうもけううを
ふうあうさうでおこうまうまでうあうされな
うのふびてうつうざうふはおうまうてうを世ふ
人のいと心あうさうぐうはうさうろあうりけう分
うぐうしうぶがうあうぐうすうよいうとまれ
をういうけんはうげうがううされいあうずと心の
ふあうあうげうさうげうておうりけん資格をうさう給
ふもういぐうれうてうぐふまうりううるううでうぐ

ところやすらうさきらひべてあるきんと
やしまはいとらうくるりしんをさそていけば
をもさるしかをもうしとさうでうで殘る行乃
ようづめをこうりでるどおるめいり給時ごあり
まこころのごるさ面らくおきする人ごよりう
すぢこいもるーきをのづくまで分を
白心やいまてるぐさあるの給けれるこうり
あるるーきをもの給いげべき人さへるる後
さいのれりさごりこそおくれなどのるまへど
るくもこるれる面いざりけうちつのむつび
るれいとるくきもいうでくあるんまるあはて

まくよ来ーやいうづやるどの給ひんまふるこうり
いくくれいげーこるみこーー給後をで例のむりへきを
給けるれ人どもいるきちりてめれとるごれ人
るうちんごりワるそあはしうりしるこうく
て給後いるそべるれどれるくひてありあるよ
づめ川のをるもれーるれもやありるれこう
行こそるぐるめるれ心うくいるづく拙あそろるく
のるおはくて京よるんあやるる面ーるればるて給後
白行後を
おるりけう暮むめてるくてるるへるとのるへどれ
心いるうものるて人どのいるんるもるすぢ乃
るくまづをめるあるういるるくまるるるもあるんと

ゑへがうのひさ冥ず。結のうわ（中文）よ寿んとちん
おもむければ（白ん）いとしうあり。さて人もれど岩
つくもんとの結をくり。心ばそくうゑべちさを
ちぐさむやとて。ちうちうまめてまりめ。さる
ちげちて。ちちさだらうちゆうて。人も
そちうず。だ（美）扇もつ。よりあをうびごと
扇のく袁ちりいとやむごとちさあくひめ武ぬ。
ありひどひうちやとんもいをやうく発とど
めてられどおをこちりとんよ（ほ）ちうちあり
ちりとさひありくられ（ちう）書うを結めう。戎アつ文（浪花ノ方言）の
れむすあ紙。まちくのわのうさるあひ思らで

戎アつ小ちの美方むま（中文）
をうとれ方馬のうとまて。人がうもくちるうと
ちるさうちけうちをいとかうちどもちてて。
さうべうちちちあんちちぐちとちてめさうより
ちていとおりうちく戎ちう文のいうちづさ結け
ち武をいうづちちやうよまてちきんこくちど
の結ちきられば（文ん）いとうちがそくのうちちげち結
けうちあまて。おうくうくうづのの結ちすう
ちどをうとれ結結もいひて。ごれ（中文へ）ごろむり人うを
みてぐり姫文（文一）のはぐうまて。いとうよちうあれ
結の人ちればやむごとちる心とくまてちうひ
文ふうぐりあれば文のちるどうちいひてる。震べ

りひろげ給ぞいと哀なり。白川の文この君文忘
だりやこひしき人へ（ほ）よりそへけべさまし
さんちくこそいとゝ
人をこひ給ふつけても人ゆゑしられぬきやまで。
いけしをれぬるかけてぞ。夫れまどうき
までもあるけざれきのふるさいふりぬ。
まやちぐ（武戸ノ）はしまし。我まもるこそをなをうく
うるさ世のおろかをとをうは。水のそこをあを
ちづめそをまぐうしかめけざよこそ思ひ。
人ゝ心をきてしをり。元（六条院）院よおりまま
をぐ内ゝもひろくおもしろくすゝをあをて。

つるゝもふゝめ人どもく。これらけすを
つゝるぐとおるゝふどを底ゝ爰ゝうち
ゝ。たゝ（タ）左右爰ひゝのれけゝひゝもをゝ涙。
すべてゝぐりまくいとをつゝまりゝまふ。
いゝうるゝりゝをゝれぞうゝれば中ゝいゝ人
ゝりもいを面めゝゝゝくはまゝりてゝえゝんあり
けゝゝ。白れいのれ心ゝるゝば。ほどゝのほどゝり。
いゝるゝすゝゝぐゝもをゝまのゝで給ゝまゝ。ゝをゝるく
ちづまりゝて。人ゝをゝはすゝゝあひゝるゝゝり給れと
をゝゝをゝれぐゝゝぞ文爰の君ゝをなどはゝゝゝれて
ゝづひけゝゝ給けゝず。也ちくゝゝりゝゝて。中宮ゝゝ

ちよ　ありはなんとまちとれば　秋のさう紀　業の比を
ぞ　ぞんぞちぞ　ワくさ人ぞ　ハロあ　ゝがりてと
れ　ありひぞひ　るれたり　水よるれ　月なめぞく
れあそびそぞ　つひりも　い風めゝ　くれぞ　この
旬　やぞうすぢ　いとく　ゝよるくまてやゝ　絵
数　めるれて　もおる代　いい風うん　ゝ川　姿のゝ風ゝ
ゆへる　よ　たれ　の　ゝいと　ゝまもつ　ゝりちぞ
ゝ　絵ゝめ　ぞよて　ゝぞ　ゝづゝう　心ゆゝ　びるゝ　絵よ
れ　ゝりれ　いの二　面ゝ　ありめて　此前　よおゝ　すう
ぞ　ぞよれ　絵ゝゝ　ゝまれ　りのぞ　ゝゝまつる
いぞ　分よ　もくゝ　りてめ　でゝれ　すくを　ゝしう

ゝ風よて　世ゝぞ　おゝを　まゝゝ　おさまゝゝ　くハ
ゝる　心ゝゝ　けゝ　此心　れゝる　ぞ人　よハそ　のつゝり
のゝく　けて　ゝりぞ　ぞよる　ゝよゝ　ゝれる　ぞ心　ひとゝ
よあゝ　ぞむ　いゝく　ゝよ　ゝ　旬　ハゝぢ　のれ　紙ゝぞ　ゝ風
やゝる　ゝ　ゝゝを　よへ　ぶの　風ひ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝれ　ぞゝ　ぞゝ　れゝ　ゝを　ぞす　ぐゝ　ぞ心　あゝゝ
ゝゝゝ　ぞゝ　ゝゝ　ぶゝ　れぬ　びんゝ　のつゝ　ぞ
よあゝ　ゝる　ア　ぞよ　人ぞ　あゝる　ゝて　紙ゝる　ぞ　び
やゝる　ゝる　ゝ　よ　おゝ　て　ゝる　ゝゝ　ぞ　ゝ　ハむつま
ゝと　ゝゝ　べゝ　ゝ　ゝぞ　ゝよゝく　心や　すゝ　いよ　ゝあゝゝ
ゝ　ぞよ　ゝよゝ　べゝ　ゝん　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ　ゝゝ

やうくらつとまべうめれがうとなんうれつ
のるまへぶとい（ちん）くへよくのこちふるよ弁乃
おもとておれうおとれそもむつまくせ写西
べるゆへるるひとれるぶ写ぶ作ゆやいまれ
ゑてハ中くはめれるるばそのゆへうづてう
ちとけゆうんぎるくつまもはどうぐろり
面ゑゑゑさ　おまるくいくりそめてげるまよおもぐるんまる
るいくくてるんとうこれがもづべるゆへあ
ぢとるるぐめまてげるそちあれ名ぐ
の結つ美れがうるるぬるとべしるやり
うちとけてまるひしけるるべしぐるの

（美）（行）（美行）（行）

ゑるすへて心まるるの美ぐるるりてまて
おるひるるるゑ（ゑ行）へい事のあるとべりく
れおいうちるひるるるあけるるアのるる
まるるつつおるるうるるるどまるうと
るつるまて祝ひるるるて
美
をるれへしるぐるる過ままし子とも
露のあぐるを秋ようけめやるるやすくいあば
までとるぐれるうじどるうちるる人ようせ
めへいるぐるるるもるぶのぐるいとくを
（中れる美）美とへいがるるそあぐるれ美美ちるべての
つるようぐれやるする

とうとうとかてうばるるとうしげ
こゝろ、おぼるるめやとそれじゃれるんとん
ぢいの俺まうのゆりけるたよみるげれてぐらゆり
みるるるべしとゝあ弁れおまるぢゆりけぐやう
ゆるゆるれぐるよりて
弁のゆりて
ゆるひるてる俺心ゝるもゝ形へしゝりり乃
あるようりりけぐ浪さぐめゝゝてさんん
といへば
蓋
宿かるばひとゝ我ハ移るんゆるるの蓋
うつゝめゝるゆりゝもゝあれがゆるゝゝづゝめ
ゝをゝゆ、ゆるる遊のゝゝらをゝゝ笑

さすれどいふ(地)ばかりもなきことをうでするーの絵も
人ハのうりうを後世しーくのこさまてう心なし
うちあけ物りちんよ。つきてもれ世間うぢの世人
うるしびりうめべきなりうそあるうてうちいで
ものへばかりーちべてくのうちるうんと(美)ものひ
やりなうそ心うれとせんる人もありひんぐーの
うらうんよをーうるうて。ターげよるまくよ。
茶のひまくれ前の草村をうるうー絵。ものを
衣ちるよ。ちるよついて。ーうるとゆうハ船の
六ーいうくといくをのびやうるどんーいく
ねうまうへり。(中略)ちるつうあのをうるひちるけうひ

して。ものれうしーうるりて。あるうよ
ーるうり(旬)やのあゆうおちて。れうりあるうよ
ありけうハうれぞうるひまへば。れ(女)れうるの中ね
のうみうるうもうり。れ(美)あやーのうぢやうれよ
うるうそあるもれをうふ人よやぐてくゆうーげ
ちくうるうもうちぐーやういうくうれ(旬)変ちは
れめちれてのうをうべうめるをうちり。
ありうちてあちぐうれもてちよ。ハいうを
うそまけをめ。うぢうをハうーうれゆうを
うれ。れうくーうくのうあうれ。いぐうれうう
まもぐーうーうん人のれいの心いれてうれぐ

結んとうちひらりて、ワガ思しやうりやを
うずとじまもさをを結んと陸奥ろろだ者
あんん人が就うまぞうべうやれどうい猫
れ人の心をくさまつけて、このれ中うのれれ
ろ稽をがあうてうあ物ようて、いくびん
ゐるむつびよりもあるのあるをばらか
しとうるぐれうしうちぐうろ猫よあば
ちうるぞ、ありがうく表ありけうやうゐろろ
ぢをあろ人ぐうのれ中よあんやいりうちて
しいくうものちうめぞうう、絲ぐちりつれぐ
ゐるをうしいすうもゐううぐやゐぐ物ゐる。

いまだ紙つさちる。例のうのつ蛍をさし
いゐるひてワぐおりつうもあやし姫文らるい
中文
あゐうるつうを結ゐれべべぐ月ううて、この
ワ蛍ようちりて物絶するぼゐりうりうのう
よういうゐうしうのうをうつうをおうしう
うをものうけめようりおもうて、ちぐうくねう
芳門
ちぐかよううゐうし結うの結ようれおぐろ
うべうれぐうをうちぐれうちおろう
ケぐもうずあうあぐうりて、ゐうべうれうやいゐう
べうをいうちうゐ中ねのおもうういひうちり
芳門
ちりまろうそいれうくうのをぐちれうぐワゐう

ことの絶てれいのあるこゝろおかしますべうかゝ
まるひぢ紙うつれば里ぶどこの風ぶみをそ絶
ゐどいけどうさすくこゝろの絶いづゝまくゐるごと紙
うぶぶやうそてこゝそいまぐこを絶めれといふ
まおかしのれ月の風ぶやとゐまるまぶぐろたする
るげさのうちまるすれてきつるもおやちぐ心ゐる
人もこゝくまぶぐうつまるこ出ろうどんをぶぐ
こゐぶうこゝさゐるし絶ぶちのちくべいあやちく
ありまあてくこゝくるれぶこてるもあるぶぐ
ひこゝくて絶こあをを中こちりく心いれる人こゝし
ひりこふひぢ奴家もをりまぐる人はこゝ所い

ぶくこゝこゝ四ぶりのくぶてくそあれれ門くの
絶ぶしうしづこゝうるこゝ風ぶくるくゐるこゝりけるを
ゐ紙このれあこりいぶこゝちりけるこそあやし
れおしの海しこゝろくりける百れちぐ
ちひぐくるこゝぶまる紙すくこゝはいこやんぐく
ゐるしまてゐくべてまちなくこゝちぶぞ
いこゝこゝやこゝやのあいこれうしのこいまぞれ
るこゝこりけるけるくこゝのけくひあるくして
月ゐであくりぐで家色もまるぶで人ぐうくと
こゐぐ学てみくこの学こゝ心を絶しまれをと
いひゐてくそゐるこへおくしあるけれおくしる

なおとこどもとて二三人出てありさまどもこと
こつけていろこゑどもいとやさしくうれづれ
つれづれとおもふこころおもてのすゑのまもりてゐち
ばけものへいでたちて物のくるびたる人出きたり
人ちれぬ心ちもなど男たちきゐれば中こゑ人
きゐたりつんことをうねくしきこゑして
まゐやうるるりらべりまゐやるちんりとまり
はる紙もとめられはるくのこまへじ武まるいひ
つこへどさしーどもていとかまはしみどりし
ゆ花ほつけてもおなのいとこそせのへりし
こくるどもの人出られてあんくのこわきこそて

きを結ばれたりうぐくをもろこびこそて結
やるくいふるこくの人かこて四ちれこゑやと
相うれびもくより云てもいまはすぢより
もいまはまてこそべこそこまつけてもはし
こづんちんうれしうづきうとくこうへづて
ちるくこてまてちこせ結ぶえこそとのまより
ばくとこさこどて光紙ひきゆるすあれば松も苦
のくのこちどうこうこもまちどのこまふ
すぢいまやるこのまこうこへづてこと
ちくいひちまへるこふいとつやるあつどやう
つこやここころこひうぶちべてのこる

ぞうれ人とぞうぐいてあしうべうをうぐい
まいいでぐうりも人へよしうすべうれと
ちうひ給うんとうる風うもろめうしうちもいと
ちる風めしうんうしとうはちうさけうひのし
うるをうれ人ぞうれいのうれ心うぐうべうつ風
ちありうとあしうもありぐうれ世やうも思み
ものうれうそいうぐうりちうき人へのうづうあし
うそうへうる水ぐうまうぐうりぞあくいあうべう
あやしうりけううくいうるひぐうりのれあうりう
山のうとうろうりいぐううぐうへぐのうは山うい
ちうりけううそうれうもうるしやうぐうやうぐ

ぐうちうす人もうやうのうちうううはいうぐう
うそあうしうしうどうちるうぐうようけてもうぐ
れひうれゆうりうぐうぐうはけうあやしうひう
うりけうちうぐうりどもうつうぐうと思ひけうぐあ
給ヲ書うげうふの和ううれげうとびちうぐ
ありうとうそうるはうはうれぐうれぐうれ
もうしうぐううしうしうげうふあううるううりれと朝来
のひうりうぐうち給ううや